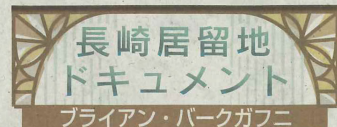


最初の施設は広馬場に

ボウリング事始め



■29■

長崎居留地に定住する欧米人たちは、晴天の日に健全なレクリエーションを求め、ピクニック、乗馬、ボートレースなどに参加した。ビリヤード、バドミントンおよび各種のゲームが、出島のオランダ人によって長年楽しまれていたが、明治期の居留地でもその人気は衰えなかった。

安政開港後、西洋からの米人たちは、晴天の日に健全なレクリエーションを求め、ピクニック、乗馬、ボートレースなどに参加した。ビリヤード、バドミントンおよび各種のゲームが、出島のオランダ人によって長年楽しまれていたが、明治期の居留地でもその人気は衰えなかった。安政開港後、西洋からの米人たちは、晴天の日に健全なレクリエーションを求め、ピクニック、乗馬、ボートレースなどに参加した。ビリヤード、バドミントンおよび各種のゲームが、出島のオランダ人によって長年楽しまれていたが、明治期の居留地でもその人気は衰えなかった。

INTERNATIONAL BOWLING SALOON.
Hirobaba Street.

THE undersigned respectfully begs leave to inform the Community that his Bowling Saloon is now open for the reception of visitors. A fresh supply of the best description of Wines, Spirits, &c., will be sold at very moderate prices.

The Proprietor trusts that by strict attention to business he will merit and receive a share of Patronage.

HENRY GIBSON.
Nagasaki, 22nd June, 1861.

文久元(1861)年6月22日発行の英字新聞に掲載された「インターナショナル・ボウリング・サルーン」の広告

ち早く伝えられた屋内レクリエーションの一つにボウリングがある。文久元(1861)年6月22日発行の英字新聞「ナガサキ・シッピング・リスト・アンド・アドバタイザー」の中に、「ヒロババ・ストリート」(現在の広馬場商店街付近)に「インターナショナル・ボウリング・サルーン」開設を知らせる広告が見られる。この施設が日本最初のボウリング場とされ、6月22日が日本における「ボウリングの日」に制定されているゆえんである。

レーンの設置 当たり前に

のだったようだ。その後、居留地に新しく建設されるホテルや居酒屋では、ボウリングレーンの設置は当たり前になった。その一つは、ドイツ人、ヨハネス・ウムラントとハインリッヒ・シヨーンネッケによって開設された「ゲルマニア・ボウリング・サルーン」である。



大浦天主堂へ続く坂道(旧南山手甲10番地)前に設置された石碑(筆者撮影)

ウムラントとシヨーンネッケは長年、下り松甲41番地にホテルを経営していたが、明治6(1873)年に酒場兼ボウリング場を南山手甲10番地の建物に開設した。2人が同14(1881)年に相次いで他界した後、南山手甲10番地の施設は「ナガサキ・ボウリング・クラブ」として生まれ変わった。クラブはスウェーデン人のニールス・ルンドベルグが買い取り、イギリス人のトーマス・コーエンが日常の運営を任せられた。翌年6月、かつてのナガサキ・ボウリング・クラブのメンバーたちが、新たな施設の発足を祝い、また帰国するトーマス・コーエンを見送る宴会のために集うことになった。クラブの会長ジョセフ・ティンティヤ幹事のロドニー・H・パワースを含む、総勢40人が集まったという。



昭和22(1947)年、連合国進駐軍は戦時中に敵国財産として接収された南山手甲10番地の建物を撮影した(米国国立公文書館蔵)

太平洋戦前に敵国財産として没収された南山手甲10番館は、戦後数年間にわたる多数の不法占拠者の住居として利用された後、リンガー家へ返還され売却された。現在、旧ナガサキ・ボウリング・クラブの跡地は駐車場として使われているが、大浦天主堂へ続く坂道に設置された石碑は、この場所を「ボウリング日本発祥地」とやや不正確に伝えている。

(クラブ園長) 月1回掲載します